卒後臨床研修の概要

倉敷中央病院（以下、当院）では、薬剤師としての実務経験が１年未満である当院職員に対して、卒後臨床研修を実施しています。

１．　理念

薬剤師としての人格を涵養し、一般的な疾病の基本的な薬物療法を理解し、その有効性と安全性を最大とするための薬学的管理に対応できる薬剤師を育成する。

２．　基本方針

- チーム医療の実践力など全ての薬剤師が身に付けるべき基本的臨床能力と専門性、薬剤師-研究者（Pharmacist–Scientist）としての科学的思考力の修得に対応した研修プログラムを提供する。
- 高度医療および地域医療に対応した様々なキャリアパスに柔軟に対応した研修プログラムを提供する。
- 他の病院や保険薬局と連携し、地域社会・患者のニーズに柔軟に対応した研修プログラムを提供する。

３．　研修プログラムの管理運営のための組織と責任者

当院の方針に則り、人材開発センターと連携し、薬剤本部が卒後臨床研修プログラムの管理、研修計画の実施、指導体制の全ての面において責任をもつ。

研修プログラムの責任者は、薬剤本部長とする。
薬剤本部長が、研修プログラムの管理者を任命し、教育・能力開発チームを設置する。
各室長が、指導担当者を任命する。
薬剤センター運営会議（病院長、事務長、薬剤本部長、医師、看護師、その他の職員から構成される）にて、卒後臨床研修の計画や実施に関して報告する。

<u>薬剤本部長</u>

１）　研修関連実務を統括し、研修者の採用と研修修了に関する主審査を行う。
２）　薬剤センター運営会議にて、卒後臨床研修計画や実施に関して報告する。
３）　研修プログラムの管理者を、薬剤本部職員から任命する（教育・能力開発チーム）。
４）　定期的に研修者と個別の面談を実施し、各薬剤師の研修過程を把握すると共に、個々のキャリア形成を促す。

<u>教育・能力開発チーム</u>

１）　研修プログラムを企画立案する。
２）　研修期間内に各カリキュラムで定める到達目標が達成できるよう総合的な支援を行うとともに、研修プログラムの調整を行う。
３）研修者や指導担当者の精神的負担や体調管理に配慮し、助言やフィードバックを行う。
４）　研修スケジュール、カリキュラム、評価方法について年１回見直し、研修プログラム責任者へ提案する。
５）　研修プログラムを薬剤本部の Web サイトで院外に公開する。

指導担当者
１）　各業務におけるメンタル面を含めた相談等を行い、研修者が円滑に研修できるように支援する。
２）　症例報告書の作成やセミナーでの発表等について指導および支援を行う。
３）　研修者の研修に対する理解及び修得の状況などを定期的に評価し、その結果を当該研修者にフィードバックする。
４）　研修期間の終了に際し、研修者の研修目標の達成状況を各室長へ報告する。

4.　研修プログラム
OJT
以下の研修を実施し、達成度の評価を行う。
１）　内服・外用・注射剤の調剤（医薬品（麻薬・毒薬・向精神薬）の管理、処方鑑査を含む）
２）外来患者の薬学的管理（外来化学療法を実施するための治療室における薬学的管理等）
３）入院患者の薬学的管理（薬剤管理指導、病棟薬剤業務、入院時の薬局との連携を含む）
４）　無菌製剤処理（レジメン鑑査を含む）
５）　医薬品情報管理
６）　薬剤の血中濃度測定の結果に基づく投与量の管理
７）　手術室及び集中治療室等における薬学的管理

倉敷中央病院人材開発センターが主催する多職種合同研修
以下の研修に参加し、修了する。
１）　コミュニケーション研修
２）　感染予防研修
３）　医療安全研修
４）　災害時対応研修
５）　シミュレーション研修（急変時対応）
６）　ステップアップ研修

教育・能力開発チーム、薬剤部が主催する集合研修

以下の研修に参加し、修了する。

１） 薬物療法研修

２） 分子薬物動態学演習

３） 臨床薬理学講座

４） コミュニケーション技術勉強会

５） 副作用報告会発表

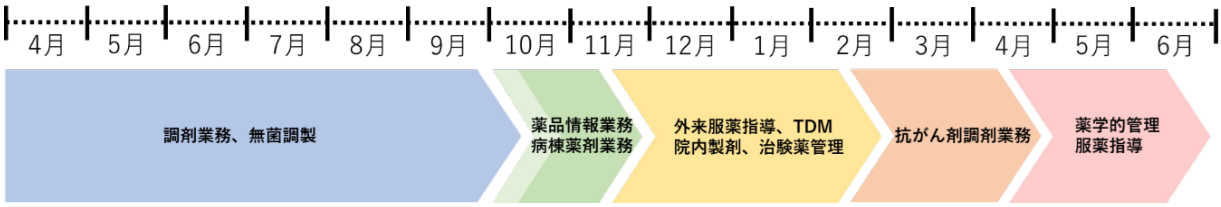
６） DSU（医薬品安全対策情報 Drug Safety Update）報告会発表

研修スケジュール

１） 期間を 4 月から翌年 6 月までの 14 ヶ月とする。

２） 研修者が複数人の場合は 1 グループを 3～5 人程度で編成し、各部署での OJT 期間が重ならないように配慮する。

スケジュール例



研修の修了

１） 教育・能力開発チームは、到達目標を設定し、到達度確認のためのチェックリストを作成する。

２） 指導担当者は、チェックリストを用いて到達度を評価する。

３） 研修者は、指導担当者からフィードバックを受け、評価表をファイリングする。

４） 各室の室長は研修者の到達度を確認して研修者に職務権限を付与し、これを職務記述書に記録する。